

令和2年度 西砂学習館運営協議会第4回（令和2年9月）会議録概要

日 時：令和2年9月24日（木）午後6時00分～9時00分

出 席：大橋 加藤 広瀬 進藤 長谷川 森 増田 小笠原 小林

事務局：石川 俣本

欠 席：岩元

1. 開会のあいさつ

大橋：台風がそれて本当に良かった。肌寒くなってきたので体調管理にも注意しなければいけない。今後取組を充実したいと考えている話は地域学習館と地域学校コーディネーターが話し合いをし、一緒に出来る事を探していきたいと思う。一步目は前年度出来たが二歩目の今年度は具体的な形で踏み出して行きたいので、話し合いを進める上で委員に意見を聞かせて頂いて実のある方向に進められたと思う。

2. 令和2年度地域活性化講座について

（1）「西砂川での災害を考える」〈第5弾〉コロナ禍での避難所の運営について

石川：新型コロナウイルスが蔓延する中で避難所での感染防止対策、一番町西砂エリアにおいて市が想定している災害発生状況と対策、避難所での注意点及び持ち物についての3点をお話して頂きたいと思う。この話を青木防災課長にした所、課長がいきいき出前講座で来る予定であり、その場合立川市防災計画に規定された立川市防災計画の概要を基本に防災対策における自助・共助・公助の連携や市民防災組織についての説明の予定であった。こちら側がお願いした内容での講師依頼とした所いきいき出前講座ではなくなり、青木防災課長ではなく係員が講師となる場合があるのでご承知おき下さいとの事だった。1月17日（日）の講座なので12月10日号の広報に掲載する必要があり、締め切りは10月26日（月）になるので、即急に防災課と調整して話して頂く内容をまとめて置く必要がある。森委員からはダンボールで出来たベッドを見たいとの意見を頂いた。他にも話して頂く内容のご意見を頂けたらと思う。意見を反映させた内容を防災課職員に伝え依頼したい。

大橋：西部エリアに特化した防災、避難所の話をして貰いたい。地震や風水害があった時に通常でない避難所運営で感染防止対策に十分配慮出来るかを知りたいと思っている。体育館内をパーテーションで区切ると30組程度しか入れず、その場合避難所が足りなくなるというのをテレビで見て心配をした。スマホで避難所の混雑具合を知らせたり、AIを使って体温を測る取り組みを川崎市で行っていた。立川市は避難所運営で先行的な情報や取組を持っているのか。

石川：防災課から西砂学習館は避難所になっているので、感染者や感染が疑わしい人をどの様に分けるかの利用案内図を提出してほしいと依頼された。コロナ対策を議会で話

しているので正確な物が出来ると思う。また、Wi-Fi の予算が付きそうになり可能なら各部屋で使えたらと思っている。

大橋：コロナ禍での避難所としての体育館やゲリラ豪雨時の一番・西砂エリアに特化した排水や災害対策を具体的に知りたいと思っている。

加藤：二年前に水害があり横田基地から沢山の水が流れてきた為、市や都から国を通して米軍に申し出をした。その時の状況の話も講座時に出てくると思うので聞きたいと思う。Wi-Fi はアイム・リスルホールを先行して行う予定とのこと。立川市全体にWi-Fi 設置を広める必要がある。

石川：Wi-Fi を設置出来た前提で避難者の電源確保の問題がある。体育館はコンセントを利用すると100円徴収しているが、西砂学習館では利用料を取っていない。Wi-Fi を設置出来た後に利用の事を詰めていかなければと思う。

森：災害時の情報伝達に置いてツイッターやフェイスブック等沢山の種類があるが、どれを使い立川市は発信しているか。事前を知っていると検索しやすい為、確認したい。避難所運営ゲームを行った時に自治会の人から話を伺い、避難時に自身の役割を知らない方が複数いて次に伝える事が出来るか心配している為、立川市はどの様に取り組んでいるのかも知りたい。

加藤：自治会の防災担当の方に参加して頂いて、地運協の委員と顔見知りになれば良い。

長谷川：少し前にこの地区で自主的に避難所運営委員会が立ち上がった。その人たちの協力があれば指示等も期待できる。

大橋：普通の避難所運営は行ってきたがコロナ禍で配慮をしなければならず、必要な物がどこまであつて、誰がどの様な形で避難所が運営されていくのかと、組織がどう受け継がれているかが明確に分からない為知りたい。

進藤：避難所運営委員会の中でコロナ対策も含めて今年は大山小エリアで防災訓練を行う予定になっている。第一回目の打ち合わせは明日の夜で防災課職員も参加するので詳しい事が分かると思う。

(2) 「気軽に学べる認知症予防講座」について

石川：昨年度はコロナで中止になったが今年度中に再度行う予定。内容は前回とほぼ同じだが、岩本委員が不参加になり予防体操は行わない事になった。参加は大橋委員・進藤委員・長谷川委員・広瀬委員・加藤委員・増田委員の6名。

(3) 「地元を学ぼう！西砂の野仏を訪ねて」について

石川：西砂小・松中小ご家族の方は一週間前から先行予約が出来る。若い世代に参加して貰いたくチラシを作っている。講師の豊泉先生には打ち合わせで西砂小・松中小ご家族の方の参加を主と考えている旨を伝えた。

大橋：歩く部分を短くして座学の時間を増やす予定になった。委員の出席は次回取る。

(4) 「にしすな夜間塾」〈第4弾〉について

石川：靴の選び方等はポイントになる事が多いのでためになる講座と思う。

小笠原：先生に概要は伝えてある。今までは乳幼児や子どもの親向けに特化した形になっていた。夜間塾の細かい内容に関しては委員がどこにポイントを置くべきかの案を提示してもこの先生なら柔軟に対応して頂けるので良いと思う。

大橋：靴が子どもの身体的発達に良い影響を与えない事もある。靴をいい加減に選ぶと成長期の子どもの発達に弊害や負担が考えられる。

小笠原：子どもの発達に弊害や負担が考えられる事が講座の芯になると思う。サンダルを利用する機会が増えていて、足がサンダルに慣れ過ぎてしまう。小さいうちからヒールのある靴を履く子が多いので専門家のアドバイスを親御さんに聞いてもらうチャンスと思った所から児童館職員が提案してくれた。

中学生は学校の指定運動靴がある。サイズ・形状が合わない中で履かざる負えないことを心配していて、逆に普段の靴選びが重要になってきている。

大橋：学校の靴が合わない事は、甲高で合わない事や先が細い等どのような理由ですか。

小笠原：四中の靴は指定靴になっている為、どうしても形状が合わない生徒が出てくる。

石川：子ども達の靴は種類が限られていて窮屈で、大きい靴にすると前が浮いてしまう場合が出てくるので難しい。講師に話して貰いたい内容はどのような事になるか。サイズが合わない時の対処の仕方等具体的な内容は良いと思う。

森：X脚やO脚の子ども達もいて、骨格の矯正を靴で上手に出来ればと思う。靴選びと骨盤や関節の関係を知りたい。

大橋：講師は整骨院勤務なので事例が沢山あると思う。生まれつきX脚やO脚や側弯なのかや履き物等、普段の仕事で得られた事をお話頂けると思う。

小笠原：頂いた意見を先生に提示して、質疑応答も含めて2時間位の講座。軽食がなくなり開始時間が遅い19時開始で先生にお願いしてみる。

(5) その他

なし。

3. 協議、報告及び連絡事項

(1) 前回の議事内容の確認（議事録）

大橋：何かあれば事務局へ。

(2) 地域学校コーディネーターとの連携について（協議）

大橋：学社一体の答申を読ませて頂いた。学習館の在り方として、コーディネーターと十分に連携を取れている事や協働しながら学校を中心として子どもの学びを支える活動を多岐にわたって行う必要があると思う。学習館とコーディネーターが腹を割って

話が出る会議になれば良い。

石川：西砂学習館運営協議会が一番この話が進んでいる。会うだけでなく実績も得る事が出来れば他の学習館のけん引役として岡部センター長も非常に期待してくれるところ。コーディネーターは学校の校長や副校長の意向を汲み取っている。西砂小と松中小で違いがあったり中学校では不登校児の家にコーディネーターが行ったり、学校の役割を担うくらい大変な所があると前回分かった。委員からコーディネーターに提案や質問をし、コーディネーターも委員の事を知りたいと思うので運営協議会やサマーイベント等事業の情報発信をするべきと思う。

顔合わせ時に話す内容がある方はご連絡下さい。時間も限られているので会った時に協働作業する目録等を事前に作れて提案出来たらいい。仮に運協で出来なくても出来る方を教えて貰い繋がれて地域の架け橋になれば良い。出来れば年内にコーディネーターをお呼びして委員と話を詰められる機会を持ちたい。

加藤：企画運営委員会の中でコーディネーター支援の話があったが、コーディネーターの役割が知られていない。各学校によって違うし学校のみで行っている場合もあるので対応が上手に出来ていない場合もある。コーディネーターと話を出来たのは西砂の運営協議会のみ。副企画運営委員長が二～三年前に講演会を行い、その時の資料を抜粋して参考に今日持って来た。お互い行いたい事の情報交換を出来る場を作れるかがポイントになると思う。

大橋：長谷川委員は7中の学校運営協議会委員。参加時に協働事業の話はあったか。

長谷川：年間事業の話や資料を頂いた。会議では話を聞くことがメインになっている。

小笠原：私は松中小学校の運営協議会委員をしている。発足してまだ二～三年目なので学校の方針を地域に分かって頂く所でストップしている印象。勿論地域の力を借りたい事を必要としていると感じるが具体的な事を手探りしている状況。第7中・松中小・西砂小の三学校でカラーの違う中、集結しているので違いを明確に出した方が良い。

大橋：出来る事や会を重ねていってお互いに連携を深めて一致した時に良いアイデアが出てくると思うのでその形に持って行きたい。活動につなげた所がゴールで今は二歩目の中で長谷川委員と小笠原委員は学校運営協議会の中に入って下さってるが、学校が地運協まで要望を出す状況ではないし手探り状況なので石川係長が言われたことを目標にしていければと思う。学校の現状として学校現場に地域の人たちがどんな形でどんな活動をしているか、協働活動の本部事業はどのような事をしているかが分かると思う。

各学校のコーディネーターが地域の人たちがどんな活動にどのような人が入っているかの情報の話をして貰えるかと思う。学校と地域を繋いでいきたいが地域の人々がどのような活動をしているか委員が分からないと話を進めていけないと思う。地運協が西砂エリアの住民の為に行っている活動を学習館で、学習館に来て頂いている方の区分のリストを最初学校に伝える必要があり、次に学校とコーディネーターが

どのような地域の人材を望んでいるかの意向は聞いてみないと分からないし、我々も一歩踏み出せない。学習館と学校は活動場所も連携して多岐にわたる様な形になっていければと思う。地運協のメンバーに学校の方が入っていない事が問題だと思う。入っていれば毎月声が入り学校との情報交換が密に出来る。

森：コーディネーターの任期は二年と思うので、前回顔合わせした時とメンバーが変わっているかもしれない。学校が地域や学習館をどの位利用してみたいかを知る事が大切だし、コーディネーターを通じて学校の考えを知る必要があると思う。

大橋：学校には校長先生や副校長先生に事前に手紙を出して考えを聞く必要がある。子どもの学びを支えるために地域の力を是非使って頂きたいと思っている。現状を知り解決の糸口を見つけながら広げていければ良いと思う。

広瀬：国としてこれからは地域が中心として役割を担っていかないといけないとの考えが出ていて法制度が少し進んでいる。社協等が力になっているが文科省が出遅れている。分かりにくい事を始める時には地域ごとに始めて広がっていく事が大切と思う。西砂地域からだけでも動き出しを始めることから広がっていくのだと思う。

大橋：コロナで一つ行う作業が増えてしまっているし、生涯学習の蓄積したノウハウを持っている広瀬委員の様な方を学校の中に投入していく必要があり、学校の中に入り関わって立川の子どもを育てる。子ども達が大人になって地域に還元する事の循環型の社会を作っていくために、経験値を持った人たちが学校に入って子ども達に関わってほしい。この時間だけでも関わって貰えたらありがたいと思う。

学習館が人材のリストを持っていて声が掛かった時に手助けに行ける体制はあるが、学校と上手にコーディネート出来ないし人材を上手く活用出来ないで終わってしまう。橋渡しをするのに係長がコーディネート力を持つ事や学校のコーディネーターと橋渡しが出来ると人材が生きて子ども達も喜んでくれる。それぞれ学校の独自に違っていいし、三校で一つの大きな柱になってもいい。地域にある人材をもっと活かして私たちも参加することによって子どもの為になる事が喜びと思う。

加藤：委員の皆さんが言う通りと思う。この様な事を出来る人がいます等やこの様な事を出来る人を知っています等をコーディネーターに伝えて情報交換を行える仲間になる事が大事。そこから始まりヒントが出るかも知れないと思う。まだ何を行えばいいか分からない人も多いし、学校や校長先生によっても全然違う。

大橋：学校から紹介して欲しいとの言葉が出て来たらとても良い事と思い全力で合った人を紹介したいし、繋がっていければと思う。一つ一つ積み重ねて普段の中でアイデアが出てくれば良い。子どもを笑顔にする事が目標なら頑張れる。

増田：先方と最初に会ってから何も行動が起きていない。話をして問題をピックアップしたら良いし沢山の事は出来ないと思う。地運協で集まった時に事前に考えて貰ってここで話をすればいい。突然話が来ても何も出来ずに話が広がっていかないと思う。

大橋：二回目を始める前に石川係長と相談して事前に手紙を出し校長先生と情報共有した

がら議論していけたらと思う。

増田：例えば俣本さんご夫妻は兩人とも担当されているので学校の事を聞いてみる事からスタートすればいい。目標が上手くいかない事を拾ってもらい個々でアイデアを練っていかないと中々前には進んでいかない。コーディネーターに一回会った後に何も行動が起きていない事は残念に思う。

石川：以前の五十嵐センター長の時に西砂が最初にコーディネーターと会い、次も会う機会を希望した時に五十嵐センター長から、すぐに他の学習館も行うので足並みを揃えたいので待って欲しいと待ったがかかった。そのままになってしまったが、現任の岡部センター長からは前に進めてほしいとの話があった。

大橋：私は使命だと思っているので進めていこうと考えている。二歩目を踏み出そうとした時に石川係長と色々やり取りした中で生涯学習推進センター長に話のプロットを作って貰いたいと依頼した。学社一体を進めていく中でシラバスがあるはずだったら運協で頂いて西砂学習館で先行して進めてもいいと思っていた。

増田：問題がある中で、評議会委員である前に市民であるため一つの問題をどの様に叶えていくのかを考える事、一つの問題を解決する事が大事と思う。顔合わせをしたのだから事務レベルでもいいので懇談の中で運協でなくヒアリングをして、問題についての方向性を決めればいい。私は学校の評議会委員がどのような目的で発令されて、どんな事を職務として行っているのかを知らないので運協で出す前に共通認識を持たないと話は上手くいかない。

加藤：あくまでも方法論だと思う。コーディネーターと委員が話し合いと情報交換をしてやりたい方向を見てお互い協力し合う。この会が先頭に立つ訳でなく、あくまでも協力する立場。話し合いを出来る場を作る事が目的で心配なのは前回みたいに会っただけになってしまうかもしれない事。石川係長や俣本さん等知っている方が事前に集まり趣旨を出すと同時にその際に話をして方向付けをしその様な方法論もあると思う。狙いはコーディネーターといかに知り合いになり、情報交換しながら委員の出来る事を提供する事と思う。

増田：このような話を進めていくと、個人情報保護の話がすぐ出てきて対応出来なくなることがある。確実に実を取るためには、コーディネーターの方がお会いした方と膝を交えて交流する会を開いても良いと思う。

石川：学校コーディネーターや地域の事があまり進んでいないのは学校の校長先生や副校長先生があまり積極的でないと個人的に感じている。自分事だが学校の先生から聞いたことがあるのは学校を助けてみたい市民は沢山いるが、意識が高い分文句を学校にに言ってしまう人が中にはいる。学校は文句が怖いので地域の方はお願いしないで保護者をお願いしている様に感じる。まず学校に信頼感を持ってもらい、気心がしれる様になって体制を築けば話が進んでいく。

加藤：コーディネーターになる方はPTAの役員経験者になるケースが非常に多い。友達に

なって協力することからスタンスが始まると思う。どうしても校長先生の意向で人選や行う事が決まってくる。

大橋：実際には支援ボランティアが学校に入っている中で運協も学校の中に入り、どんな人がどんなことをどの様に活動しているのを知る事が第一歩として必要だし、逆に西砂学習館での活動内容を漏れなく伝える事が大切なのだと思う。話をしながら回数を増やし学習館と学校が近くなり支援から協働への部分で活動にいければ良い。第一歩目、第二歩目として歩み寄って一緒に行えるものを探っていく事が地域学習館や学校支援コーディネーターや学校に課されている課題なのだと思う。

森：学校と気心をしれる事は大事と思うので、運協とは別にしっかり時間を使いゆっくり話し合いが出来たら良い。地運協を知って貰っているのと知らないのは全然違うし、出来れば地運協の流れを毎回コーディネーターにお知らせしてアピールしていける方法があればと思う。

大橋：会議録は異論がなかったら学校の校長や副校長やコーディネーターに送っても良いと思う。委員が学習館として考えなくてはいけない課題について事前に知って貰った方が良いし伝えたい。別枠で委員に声を掛けるので参加出来る委員は参加して前に進めていければと思う。長谷川委員、小笠原委員は学校の運営協議会に参加した時に事前に地運協の手紙がいつていけば、議題に上がって学校と共に行いたい事が伝わっていくかもしれない。色々な形で伝えていく事が必要。

加藤：大橋委員長が作られたサマーイベントのパネルをまず見て頂いて学習館が行った事の話をする事がまず必要。見て貰えば活動内容を理解して貰える。

広瀬：サマーイベントで子ども達と接して委員の役割は重要。難しい事は出来ないが使って貰えたら嬉しい。

小林：昔の係長の時には2~3回副校長先生が地運協に出てくれた事もあった。

大橋：地運協のメンバーは増やせるのか。

石川：条例で人数の上限は決まっているが可能。

大橋：答申を見ると学校のPTAの方がメンバーに入っているべきとの書き方をしている。学校がメンバーに入ってくれば地運協の中で情報交換が出来る。方法論では地運協だけでは進められない事も分かったので、石川係長と相談してやり方や日程を詰めていきたい。逐次地運協に報告して会議の中で委員に知って貰いたい事柄については情報提供していく。

森：サマーイベントで行った内容の資料は学校に伝えてあるか。

石川：委員に渡したものと同じ報告書を渡してある。

森：サマーイベントだけではなく他の野仏の講座も校長先生に見て貰える資料を渡した方が良い。資料を見ればイメージ出来ると思う。

大橋：意味があると思う。学習館が児童の居場所作りのなすべき役目が入っている。野仏の講座も立川市民科の冠が付く講座だし、立川を親身になって愛して欲しいとの目的

があって行っているので伝えていきたい。学校に内容の実態は知らせないといけないし、差し当たってコーディネーターに知って貰わないといけない。

加藤：サマーイベント等の資料を定期的にコーディネーターにも渡した方がいい。時間を掛けて行えばいい。

(3) 西砂運協（学習館）が発行する情報誌のネイミングについて（協議）

大橋：方言はネイミングとしては難しかったので沢山考えて「FOR (FROM) WEST SIDE」を作った。FROMは西砂から情報発信をする意味が込められている。FORは西砂のための意味が込められている。岩元委員は「西一元気通信」案を頂いた。

増田：「みんなで創ろう住みよいまち」この通りの意味が込められている。

石川：コーディネーターとの関わりがあるので編集会議を開いて各学校のコーディネーターに入って貰い、学習館と学校の情報を混ぜて西砂の情報とすれば良い。一校入れて貰えば繋がりが出来る。これは大切な道具になるのでこれから進めていく地域の連携にコーディネーターに入って貰うと広がりが出来ると思う。

広瀬：情報誌はいずれ西砂町と一番町の全体の誌になるのだと気構えが必要なので個別では行わない方がいい。

大橋：確認したいのは社会福祉協議会等の団体を学校に紹介してもいいのかどうかで、部活動等でコーディネート出来るかが気になる。

進藤：太鼓や笛等で事前にOKを頂いている団体なら紹介できる。委員等が学校に出向くのかまたは学校の生徒に学習館等に来てもらい放課後時間を利用するのかを事前にはっきりした方が良い。

大橋：コーディネーターは昨年全校配置になったばかりなのでまずは出向く事になるし、森委員のパソコン講座は出向く講座に向いているのではと思う。

森：西砂パソコン倶楽部は講師と受講生で全く立場が違うので教える側と楽しんでいるだけの人もいるので見極めないといけない。行ったら教えることが出来ない人も出てくる可能性もあると思う。

大橋：情報誌の様式やページ数はA4で両面刷り3,000枚でポストिंगはしない。発行回数は年2回プラス臨時号にする方向にしようと思うがプロットを提案し次回決める。ネイミングを含め多数決で決めたい。

(4) フリースペースについて（報告）

小林：今は中止しているので報告はない。

小笠原：年内いっぱいには中止になった。

(5) 各委員から報告及び連絡事項

加藤：コロナの影響で7月から講座を再開したが、今までは殆どが柴崎や高松開催であった

が再開してから一番回数が多い館は西砂になっている。豊泉先生の野仏や森委員のパソコン講座も西砂開催。西砂学習館の協力がとても素晴らしい。

広瀬：立川市シルバー大学が9月から始まった。一番福社会館では今まで一講座（絵手紙）だったが、今年からボイストレーニング講座が新設された。定員20名で月2回、講師はタガヤ先生。この地区に講座が増えていることが嬉しい。

10月3日（土）たましんR I S U R Uホールにて「フレッシュ名曲コンサート」が開催される。ピアノ演奏者の秋山さんは西砂町生まれで10才までこの地域に住んでいた。今は東京芸術大学の大学院修士1年生。

進藤：11月7日（土）立川市地域福祉市民フォーラム（ちょこっとボランティア全体研修）「地域で共に生きていく～8050問題から見てきたこと～」が開催される。定員98名。皆さん是非ご参加下さい。

小笠原：児童館は9月から二学期が始まっている。10月に比較的大きい行事のハロウィンが解禁になった。地域を廻る事は不可、食べ物の提供も条件付きなので館内に楽しい仕掛けを作って謎解きの形で定員を設けて行う予定になっている。新しい動きは、子どもから行事の提案があり、子どもが先生役になる行事が立ち上がった。

地域の方から、現在学校にカウンセラーが配置されているが、学校の中で相談出来るなら悩まないとの言葉を頂いた。周りの目を気にしてカウンセラーの部屋にも行けない子がいるので児童館や学習館にカウンセラーを配置出来ないかとの相談を受けた。学校の中だけでは完結する問題でなくなりつつあるのかなと感じた。

子ども食堂の開催が出来ていないので、いちばん子ども食堂実行委員に協力を頂きフードパントリーを行っている。9月は2回行った。1回目は13組、2回目は21組が来た。既に10月の申込みも入ってきている。市内・昭島・武蔵村山・福生の近隣の方達にも委員からも声を掛けて頂いている。支援や繋がりを欲している子が多い事も今回の事で感じた一か月になっている。

長谷川：青少健の活動は殆どないが9月2日～4日で中学生の主張作文の選考会を西砂会館で実施。10点選考し今後各地域の青少健で更に選考していく。11月3日の大会も開催予定だがはっきりした事は分かっていない。麦まきも未定。

小林：一つ嬉しい事があった。地域の子どもから暑中見舞いを頂いた。子ども食堂でまた食べたいので、コロナにならないで元気でいて下さいと書いてあったので嬉しかった。

森：西砂パソコン倶楽部は加藤委員の協力の元無事講座を開催する事が出来た。増田委員にも参加頂き盛況だった。早速9月の西砂パソコン倶楽部の講座に3名が参加。積極的に良かった。菅総理に変わりデジタル庁も開設された。立川市もデジタル化を積極的に考えていかなくてはいけないし、防災面でもこれからはどこでもインターネットを使える様にして頂きたい。災害時のWi-Fiも学習館のWi-Fiを活用出来れば良い。

増田：たちかわ・財政を考える会では、「財政学習会」開催をコロナの影響で5月まで中止

していたが6月から再開。外部の方を講師にお招きして学習会をした。また、市議会の傍聴をさせて頂き市民の側から見て役に立つ行政や議会運営を微力でも実現していきたい思いで進めている。小さい所から着実に進めている。

石川：先ほど Wi-Fi の話がでたが西砂学習館で選挙の期日前投票が出来るように動いている。その為には光回線を引かなくてはいけないという事で間違いなくネット回線が利用出来る様になるので使える用途が増えると思う。

西砂学習館内に不用物が多くあるので整理整頓をしている。視聴覚室の準備室の物をすべて利用出来るのか確認し、使えないものは廃棄処分にし、きれいに整理した。眠っていたステレオは第1和室に設置。第2実習室では陶芸団体が解散したので、同じく不用品やロッカー内の整理をした。ロッカーに空きが出たので社会教育関係団体向けにロッカーの無料貸出しの募集をする。ロッカー利用の希望があれば申し込みをお願いします。

その他

次回 10月20日(火) 18:00～